

# iCARE Symposium in KYOTO

オリンピック開催が2020年東京と決まりました。

消費税増税にすべてをかけた社会保障制度。団塊世代が後期高齢者になり、都市部にあふれる2025年にむけて日本の社会福祉と医療は大きく変わろうとしています。2010年からはじまった「地域包括ケアシステム」による高齢者介護の市場化構想と2013年社会保障改革国民会議(社保会議)が、その方向を如実に示しています。

医師から看護師へ、看護師から介護福祉士へという医療の後退、国民皆保険制度に担保されたフリーアクセス医療への制限など、さまざまな医療・介護抑制がやってくると思われま

す。オリンピック招致決定のお祭り騒ぎで、その動きに拍車がかかることは必至です。

いまここで、歴史的な位置を確認する意味でも、これまでの医療的ケアや重症心身障害児支援の歴史に立ち戻り、「医療的ケア」をコアに今後の方向性を再確認したいと思



6・16シンプオの記録

## 『医療的ケア児者の地域生活支援の行方 ——法制化後の検証と課題』出版記念シンポジウム

市場原理に組み込まれる？

# 医療的ケア・弱者の 目線で問い直す

2013年11月3日(日)

会場・ホテル ルビノ京都堀川 2F「みやこの間」(会場地図は裏面)  
〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町下ル TEL: 075-432-6161(代)

時間・13:30~17:00 (開場 13:00) 参加費・会員1000円・非会員1500円  
※シンポ申込時に入会されると会員扱いの参加費となります。

### 第1部 記念講演 「死の自己決定権のゆくえ」 児玉真美さん

「死の自己決定権のゆくえ」(大月書店)を上梓された児玉真美さんに「無益な治療」論に象徴される海外の動静とメディア誘導の本質を語ってまいります。その先には生の多様性を保障する安全・安心な医療的ケアがあると思います。

⇒ 裏面に講師プロフィール

### 第2部 シンポジウム【徹底討論】 「医療的ケア」をコアに今後の方向性を探る！

——医療・福祉の政策動向と医療的ケアの格差の平準化を

2025年にむけての医療と福祉(介護)「改革」の中身をしっかりと「深読み」したうえで、医療の後退、医療と福祉の連携の希薄化、都市と地方、そして全国の格差化に対して、最低の平準化をどう担保することができるか、医療、福祉、教育など各分野のシンポジストと参加者で討論します。

⇒ 裏面にテーマ・シンポジスト、「討論のキーワード」

交流会 講師・シンポジスト・参加者有志による交流会(会場のホテルにて) 17:30~19:30=要予約

[www.mcnet.or.jp](http://www.mcnet.or.jp)

主催・NPO 法人医療的ケアネット TEL.075-693-6604 FAX.075-693-6605 e-mail.mcnet-info@mcnet.or.jp

後援・京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会、京都新聞社会福祉事業団(申請中)

申し込みはFAXかMailで!

# 市場原理に組み込まれる？ 医療的ケア・弱者の目線で問い直す

## 第2部 シンポジウム【徹底討論】「医療的ケア」をコアに今後の方向性を探る！

### ①教育

#### 原点に戻って「医療的ケア」を考える

シンポジスト 言葉をつくった人 松本嘉一さん (元大阪府立看護学校長)

大阪で生まれた「医療的ケア」という言葉、どうして誕生したか、教育の原点として「医療的ケア」を提起された。法制化の今、名付け親に思いを語っていただく。

### ②当事者・保護者

#### 法制化は子どもにとってよかったのか？

シンポジスト 嶋本恵造さん (重心児童保護者・NPO法人医療的ケアネット理事)

法制化後の喀痰吸引等研修では「医療的ケア」という言葉はまったく使われていない。保護者として「教育としての医療的ケア」の充実を教育現場に期待する。

### ③医療

#### 子どもたちが地域で暮らすこと～小児在宅に笑顔を増やす取り組み

シンポジスト 島津智之さん (国立病院機構 熊本再春荘病院小児科、NPO法人NEXTEP理事長)

病院の医師でありながら小児在宅を支えるNPO法人の理事長として、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションなどの活動で、超重症児の在宅生活支援を精力的に行っている。拠点は熊本市に近接する合志市、都市部から少し離れた地域での展開は、これからのモデルの一つである。

### ④福祉

#### 自立支援協議会をうまく活用しよう

シンポジスト 尾瀬順次さん (京都府乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会、NPO法人てくてく)

自立支援協議会は医師会など医療・福祉ほかのさまざまな連携が可能な組織であり、昨年3月、厚労省があらためて通知を出して各地の協議会発足を促している。医療的ケア部会・委員会の取り組みから自立支援協議会の活用法を探る。

### 討論のキーワード

- 1 高齢者急増対策の地域包括ケアシステムの中身と、それに翻弄されないで障害者の地域生活を守るのか。
- 2 すべてが市町村押し付け策のなかで全国の平準化をどう組織し、「可能なモデル」をどう展開するか。「社会会議」の本質把握と、医療の後退のなかで超重症児者の安全・安心な生活をどう守っていくか。
- 3 世界に誇る重症児者入所施設 や学校での医療的ケアの歴史を振り返るなかで、今後の方向性をみんなで討論・確認をしたい。

## ●第1部【記念講演】 講師プロフィール

### 児玉 真美 (こだま・まみ) さん

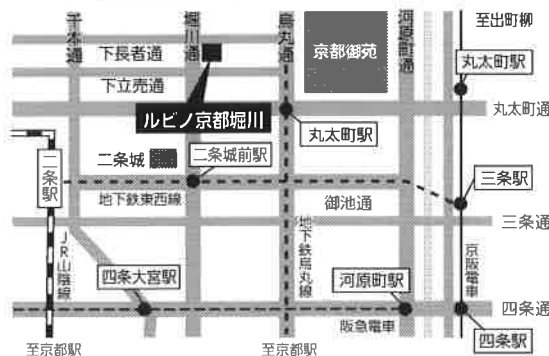
1956年生まれ、広島県在住。京都大学卒業。米国カンザス大学にてマスター取得。英語の教師(高校、大学)として勤務の後、現在、翻訳・著述業。長女に重症心身障害がある(現在25歳)。著書「私は私らしい障害児の親でいい」(ぶどう社)、「アシュリー事件—メディカル・コントロールと新・優生思想の時代」(生活書院)、「海のいる風景—重症心身障害のある子どもの親であるということ」(生活書院)。主な訳書「春待つ家族」(講談社)、「天使の人形」(偕成社)ほか。2006年から雑誌「介護保険情報」(社会保険研究所)に連載「世界の介護と医療情報」を執筆。2007年から、ブログ「Ashley事件から生命倫理を考える」で世界の情報を発信している。



著書  
「死の自己決定権のゆくえ」  
(大月書店)

## ●ルビノ京都堀川「会場案内」

- ◆京都市バス＝「堀川下長者町」下車すぐ  
JR「京都駅」から9・50番・京阪「三条駅」から12番
- ◆地下鉄「丸太町駅」より徒歩約15分



申込書送信先

FAX.075-693-6605

mcnet-info@mcnet.or.jp

## 出版記念シンポジウム 医療的ケア・弱者の目線で問い直す ●参加申込書

※全てご記入ください

申込者の氏名 (フリガナ)	申込者の職種	所属団体 施設など
申込者の連絡先 (住所)〒 _____ (TEL) _____	(FAX) _____	会員 ・ 非会員 ※どちらかに○印をお願いします
交流会(会費4,500円)	参加 ・ 不参加	※どちらかに○印をお願いします

申込締切日 2013年10月25日(金) ※ただし、定員に達し次第、締め切ります。

※FAXとE-mailのみでの申込受付とします。

※記入いただいた個人情報は、セミナーの案内など「医療的ケア」に関する情報提供のみに活用します。